

三樹会病院における臨床統計 (第9報)

—1988年度外来新患統計—

医療法人(社団)三樹会病院(院長:丹田 均)

丹田 均*, 加藤 修爾, 大西 茂樹

中嶋 久雄, 毛利 和富, 氏家 徹

CLINICAL STATISTICS ON OUTPATIENTS AT THE
UROLOGICAL CLINIC OF SANJUKAI HOSPITAL IN 1988Hitoshi TANDA, Shuji KATO, Shigeki OHNISHI,
Hisao NAKAJIMA, Kazutomi MORI and Toru UJIE*From the Urological Clinic of Sanjukai Hospital*

A statistical study was performed on new outpatients. The total number of new outpatients in 1988 was 8,389 (male: 5,284, female: 3,105) and the male to female ratio was 1.70:1. They had urogenital diseases definitely diagnosed (7,486), urogenital diseases indefinitely diagnosed (576), no diseases (260), and diseases other than urogenital (67). Thirty-five percent of the outpatients were referred to us by other sources. The number of operations on new outpatients was 139, circumcision, vasectomy and resection of condyloma were representative. The peak of the age distribution was in the thirties for males and in the fifties for females.

A statistical study was made on new outpatients according to the international classification of disease. There were 146 malignant (urogenital) tumors (1.8%). The major diseases of the new outpatients were cystitis (acute or chronic: 20.7%), upper urinary tract stone (18.5%), prostatitis (13.0%), and benign prostatic hypertrophy (11.2%). In males the major diseases were prostatitis, upper urinary tract stone, benign prostatic hypertrophy, balanoposthitis, phimosis and in females they were cystitis, upper urinary tract stone, pyelonephritis, renoptosis, and neurogenic bladder.

We conclude that our hospital plays a major role as a private urological hospital.

(Acta Urol. Jpn. 35: 1445-1450, 1989)

Key words: Clinical statistics, Outpatients clinic

緒 言

1988年度の三樹会病院(日本泌尿器科学会専門教育施設認定, ESWL 施設認定)の外来新来患者の統計を報告する。

対象と方法

1988年1月1日より同年12月末日までの1年間に当院に受診した新来患者(以下新患とす)を対象とした。疾病分類は, 第8報¹⁾に準じた。

結果と考察

1. 新患数

新患総数は, 8,389例で男子5,284例(63%), 女子3,105例であった。男女比は1.70:1であった。新患数は昨年に比し327例多く受診した²⁾。また, 他医より紹介を受けた患者数は2,936例(35%)で, 昨年に比し, 約100例多かった(Table 1 参照)¹⁻²⁾。

新患の年齢層別受診数を Fig. 1 に示した。30歳代と50歳代にピークを示す山型の受診数であった。男子では30歳代にピークを, 女子では50歳代がピークであった⁶⁻⁸⁾。この2相性の型は, 他の主なる大学泌尿器科新患統計の型と一致するものである。前半の30歳のピークは炎症を中心に, 50歳~60歳代は血尿の精査,

* 札幌医科大学非常勤講師

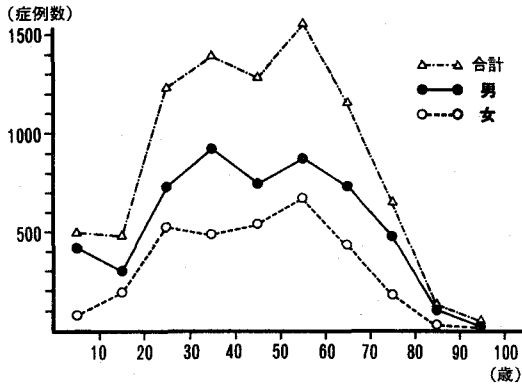


Fig. 1. 外来新患の年齢層別性別分布 (1988年度)

Table 1. 新来患者数 (1988年度)

男	性	5,284 (63%)
女	性	3,105 (37%)
合	計	8,389 (100%)
紹介患者数		2,936 (35%)

ESWL による結石症の治療のため受診した結果と考えている。

新患の内訳を Table 2 に示した。確診は7,486例 (89.2%) で、未診は576例 (6.9%)、泌尿器科の正常は260例 (3.1%)、他科は67例 (0.8%) であった。入院患者総計は1,559例のうち紹介を受けた患者は993例 (63.7%) であった^{4,8)}。

Table 2. 新患の内訳 (1988年度)

	男	性	女	性	合	計
確 診	4,778		2,708		7,486	(89.2%)
未 診	295		281		576	(6.9%)
正 常	182		78		260	(3.1%)
他 科	30		37		67	(0.8%)
合 計	5,285	(63%)	3,104	(37%)	8,389	(100%)

2. 外来患者手術

外来扱いの手術数は139例でその内訳を Table 3 に示した。包茎に対する環状切除、精管結紮、コンジローマ切除が主なるものであった。

3. 国際疾病分類 (I.C.D.) の第9回修正分類に基づく、1988年度新患統計

感染症および寄生虫症をまとめ、Table 4 に示した。STD としての分類がないので、便宜上ここにまとめた。また外陰部炎、外陰部湿疹は、一次性か二次

Table 3. おもな外来手術名と例数 (1988年度)

手 術 名	139
環 状 切 除	50
精 管 結 紮	42
コンジローマ切除	22
嵌頓包茎整復	6
カルンケル切除 (女)	5
そ の 他	14

Table 4. I 感染症および寄生虫症

	(例数)	(男)	(女)
016 泌尿生殖系の結核			
016.0 腎	4	2	2
096 梅 毒	4	3	1
098 淋菌感染			
098.0 急性、下部尿生殖器	98	90	8
クラミジア混合	3	3	0
099 その他の性病			
099.4 その他の非淋菌性尿道炎	73	72	1
(076) ヘルペス	35	32	3
(078) クラミジア	45	41	4
(112) カンジタ症	12	9	3
(132.2) 毛じらみ症	17	14	3
616.1 外陰部炎	12	1	11
外陰部湿疹	46	44	2
<性病の検査>	25	17	8

性かはっきりしないので、現症として示した。

新生物 (悪性・良性) の疾患者数を Table 5 に示した。前立腺癌、膀胱腫瘍が主なるものであった。全尿路悪性腫瘍は146例で有疾患数の1.8%であった。

内分泌、栄養および代謝性疾患、ならびに免疫障害の疾患数を Table 6 に示した。泌尿器科としてはまとめにくい疾患群を一括してこの項目にいたした。XXY 症例を3例経験したが例年通りの数字である。泌尿器系 (泌尿生殖系) の疾患を Table 7 (1) (2) (3) に示した。上部尿路疾患では、結石症、腎盂腎炎、腎下垂、腎のう胞が主なるものであった。下部尿路、生殖器系の疾患は例年のごとく、膀胱炎 (尿道膀胱炎)、前立腺炎、前立腺肥大症、亀頭包皮炎、包茎が主なるものであった。婦人科的手術後に発生した尿管腔瘻の1

Table 5. II 新生物(悪性)

	(例数)	(男)	(女)
185 前立腺癌 (経過せる)	38 (2)	38 (2)	0 (0)
(再発)	(8)	(8)	—
186 睾丸腫瘍 (経過せる)	4 (1)	4 (1)	0 (0)
187 陰茎 その他の男性生殖器	0		
188 膀胱腫瘍 (経過せる)	42 (12)	30 (9)	12 (3)
(再発)	(9)	(8)	(1)
189.0 腎 癌 (経過せる)	17 (4)	9 (4)	6 (0)
189.1 腎盂・尿管腫瘍 189.2 (経過せる)	11 (3)	8 (2)	3 (1)
182 子宮癌(尿路侵襲)	7	0	7
194.0 副腎腫瘍	2	1	1
154.0 胃腸系ガンの尿路侵襲	7	5	2
202.0 悪性リンパ腫	1	0	1

II 新生物(良性)

	(例数)	(男)	(女)
078.1 外陰部コンヂローマ	39	35	4
599.3 尿道カルンケル	25	0	25
222.4 陰囊腫瘍	7	7	0
223.0 腎腫瘍(良性)	2	1	1

Table 6. III 内分泌, 栄養および代謝疾患
ならびに免疫障害

	(例数)	(男)	(女)
257 睾丸機能障害			
(606) 無精子症	8	8	0
(606) 乏精子症	22	22	0
(758.7) XXY症例	3	3	0
(792.2) 死精子症	1	1	0
(608.8) 血精液症	26	26	0
逆行性射精	1	1	0
射精障害	1	1	0
257.2 類宦官症	2	2	0
259.0 晩発思春期	1	1	0
302 性的障害(IMP)	76	76	0
274 高尿酸血症	13	9	4
307.6 夜尿症	32	27	5
252.0 副甲状腺機能亢進症	1	0	1
275.4 カルシウム代謝障害	2	0	2
270.0 チスチン尿症	3(2)	2(1)	1(1)

Table 7 (1). X 泌尿生殖系の疾患

	(例数)	(男)	(女)
580 急性糸球体腎炎	5	3	2
581 ネフローゼ症候群	11	7	4
582 慢性糸球体腎炎	32	19	13
583 糖尿病性腎症	5	3	2
584 急性腎不全	1	0	1
585 慢性腎不全	8	4	4
589 腎の萎縮	16	9	7
590.0 腎盂腎炎	123	17	106
591 水腎症 (経過)	29 (8)	12 (3)	17 (5)
593 腎および尿管のその他の障害			
593.0 腎下垂	108	11	97
593.5 尿管	2	2	0
593.7 V.U.R (経過せる)	21 (4)	3 (0)	18 (4)
593.2 腎嚢胞(多発性)	105(11)	68(10)	37(1)
593.4 尿管狭窄	18	11	7

Table 7 (2)

	(例数)	(男)	(女)
592 腎および尿管結石			
592.0 腎の結石	472	306	166
腎結石			
単発性 (両)	25	13	12
(右)	138	94	44
(左)	130	84	46
多発性 (両)	39	28	11
(右)	26	19	7
(左)	58	44	14
(経過せる)	(8)	(8)	(2)
錐型結石(両)	2	0	2
(片)	29	9	20
腎杯憩室結石	15	9	6
海綿体腎結石	2	0	2
	127	90	37
腎・尿管結石(両)	1	1	0
(片)	60	48	12
(経過せる)	(1)	(1)	(0)
両側腎結石+片側尿管結石	6	3	3
片側腎結石+片側尿管結石	22	13	9
UPJ(対)	37	24	13
592.1 尿管の結石	894	649	245
尿管結石			
単発性 (両)	1	1	0
(右)	382	276	106
(左)	476	345	131
(経過せる)	9	7	2
多発性 (右)	8	6	2
(左)	17	13	4
尿管瘤結石	1	1	0
	(1493)	(1045)	(448)
術後 OK	55	33	22
術後残石	28	18	10
594 下部尿路の結石			
594.1 膀胱結石	28	21	7
594.2 尿道結石	7	6	1

Table 7 (3)

	(例数)	(男)	(女)
595 膀胱炎	856	24	835
595.3 尿道膀胱炎	816	12	804
597.0 尿道炎	34	28	6
598.0 膀胱頸部硬化症	4	6	0
598.3 膀胱憩室	4	2	2
588.8 萎縮膀胱	3	3	0
598 尿道狭窄	48	47	1
(術後)	(8)	(8)	(0)
600 前立腺肥大症	892	892	0
(経過)	(18)	(18)	(0)
601.0 前立腺炎(急性)	44	44	0
601.1 前立腺炎(慢性)	1003	1003	0
603 陰囊水腫	60	60	0
604 睾丸炎	3	3	0
(耳下腺炎性)	(2)	(2)	(0)
副睾丸炎	112	112	0
(両)	(3)	(3)	(0)
605 包茎	215	215	0
(真性)	(8)	(8)	(0)
嵌頓包茎	26	26	0
607 陰茎の障害			
607.0 陰茎硬結	10	10	0
607.1 龜頭包皮皮炎	246	246	0
608 男性生殖器のその他の障害			
608.1 精液瘤	9	9	0
精索水腫	6	6	0
(456.4) 精索静脈瘤	15	15	0
608.2 睾丸捻転	10	10	0
睾丸垂捻転	3	3	0
608.8 睾丸萎縮	1	1	0
精管結紮状態	3	3	0
618 膀胱脱	1	0	1
599.5 尿道脱	2	0	2
619.0 尿管と女性生殖路間の瘻	1	0	1
膀胱と女性生殖路間の瘻	3	0	3
598.1 膀胱直腸瘻	1	0	1
599 尿道・皮膚瘻	4	4	0
598.2 膀胱瘻	2	2	0
997.5 腎瘻状態	2	1	1
ブリッカー状態	4	2	2
尿管皮膚瘻	2	0	2

例を経験したが、内視鏡的操作で治癒させた。Table 7(2) に示したごとく、結石症は、上部尿路結石は1,493例、下部尿路結石は75例であった。昨年に比し上部尿路結石は、263例多く受診した。

先天異常の疾患数を Table 8 に示した。重複腎盂兼不完全重複尿管、のう胞腎、停留睾丸(遊走睾丸)が主なるものであった。重複尿道、骨盤腎、下大静脈後尿管等稀有なる症例も経験した。

損傷および中毒の疾患数を Table 9 に示した。異物、神経因性膀胱も、まとめてここに示した。ヨードショック(低血圧、痙攣)2例を経験したが寛解した。

症状・徴候および診断名不明確の状態9疾患数を Table 10 に示した。疼痛、血尿、頻尿の精査のため受診し、明白なる診断がえられないが経過観察中が主なるものである。

結 語

1. 1988年度新患の主疾患は膀胱炎1,672例(20.7

Table 8. XIV 先天異常

	(例数)	(男)	(女)
752 生殖器の先天異常			
572.5 停留睾丸	13	13	0
(経過せる)	(13)	(13)	(0)
遊走睾丸	10	10	0
(経過せる)	(1)	(1)	(0)
752.6 尿道下裂	4	4	0
(経過せる)	(6)	(6)	(0)
752.8 傍尿道口嚢腫	5	5	0
睾丸症	1	1	0
陰茎弯曲	3	3	0
倭小陰茎	1	1	0
753 泌尿器の先天異常			
753.0 単腎症	2	1	1
753.1 囊胞腎	9	5	4
海綿腎	1	0	1
形成不全腎	1	1	0
753.3 過転腎	3	2	1
馬蹄腎	3	2	1
骨盤腎	1	1	0
分葉腎	3	2	1
重複腎盂(不完全)	7	2	5
兼不完全重複尿管	24	5	19
兼完全重複尿管	8	3	5
腎杯憩室	2	0	2
753.4 尿管瘤	2	0	2
下大静脈後尿管	1	0	1
753.8 重複尿道(不完全)	1	0	1

%), 上部尿路結石症1,493例(18.5%), 前立腺炎1,047例(13.0%), 前立腺肥大症900例(11.2%)であった(Table 11 参照)。

2. 1988年度男・女別の新患の主疾患は、男子では、前立腺炎1,047例(20.6%), 上部尿路結石症1,045例(20.6%), 前立腺肥大症900例(17.7%)で、女子では膀胱炎1,639例(54.8%), 上部尿路結石症448例(15.0%)であった(Table 12 参照)。

参 考 文 献

- 1) 丹田 均, 加藤修爾, 大西茂樹, 坂 文敏, 中嶋久雄: 東札幌三樹会病院における臨床統計(第1報), 1983年度外来新患統計, 泌尿紀要 30: 1671-1676, 1984
- 2) 加藤修爾, 大西茂樹, 坂 文敏, 中嶋久雄, 丹田均: 東札幌三樹会病院における臨床統計(第2報), 開設より5カ年余の外来新患統計, 泌尿紀要 30: 1677-1684, 1984
- 3) 丹田 均, 加藤修爾, 大西茂樹, 坂 文敏, 中嶋久雄: 東札幌三樹会病院における臨床統計(第3報), 1984年度外来新患統計, 泌尿紀要 31: 1743-1749, 1985
- 4) 坂 文敏, 中嶋久雄, 大西茂樹, 加藤修爾, 丹田均: 東札幌三樹会病院における臨床統計(第4

Table 9.
XVII 損傷および中毒

	(例数)	(男)	(女)
866 腎外傷	2	2	0
(経過)	(1)	(1)	(0)
腎被膜下出血	1	1	0
867.0 尿道断裂(不完全)	4	4	0
867.6 睾丸打撲	3	3	0
睾丸破裂	1	1	0
陰莖損傷	8	8	0
外陰部外傷	5	4	1
尿道損傷(留置カテーテル時)	4	4	0
(306), (344), (596)			
神経因性膀胱	129	71	58
939 尿生殖路内の異物			
939.0 膀胱異物	2	0	2
939.2 陰莖異物	1	1	0
995.0 ヨードシヨック	2	1	1

Table 10.
XVI 症状, 徴候および診断名不明確の状態

	(例数)	(男)	(女)
788 泌尿系に関する症状			
788.0 腎(腹)部疼痛	184	84	100
788.1 排尿障害	7	4	3
788.2 尿閉	3	3	0
788.3 尿失禁	22	3	19
788.4 頻尿および多尿	47	23	24
788.5 乏尿	6	1	5
(浮腫)	(25)	(3)	(22)
(586) 尿毒症	18	10	8
(腎透析希望)	(11)	(9)	(2)
791 尿検査の非特異的所見			
791.0 蛋白尿	32	14	18
(599.0) 細菌尿	3	0	3
(599.7) 血尿	212	109	103
腎出血	21	8	13
血尿+蛋白尿	9	6	3
血尿検査	20	9	11
791.1 乳び尿	9	4	5
780.6 発熱	2	2	0
不妊	4	4	0
788.1 残尿感	31	23	8
排尿痛	3	2	1
791.9 尿混濁	4	4	0

Table 11. まとめ(1) 1988年外来新患の主疾患

主疾患	例数
1 膀胱炎(急性・慢性)	1,672 (20.7%)
2 上部尿路結石症	1,493 (18.5%)
3 前立腺炎(急性・慢性)	1,047 (13.0%)
4 前立腺肥大症	900 (11.2%)
5 亀頭包皮炎	246 (3.1%)
6 包莖(嵌頓包莖含む)	241 (3.0%)
7 神経因性膀胱	129 (1.6%)
8 腎盂腎炎	123 (1.5%)
9 副睾丸炎	112 (1.4%)
10 腎下垂	108 (1.3%)
11 その他	腎のう胞(105) 淋菌感染(98) 膀胱腫瘍(42)

() %は有疾患数 8,002 例に対する割合

Table 12. まとめ(2) 1988年新来患者男・女の主疾患

(男)		(女)	
主疾患	順位	主疾患	順位
前立腺炎	1,047 (20.6%)	1 膀胱炎	1,639 (54.8%)
上部尿路結石	1,045 (20.6%)	2 上部尿路結石	448 (15.0%)
前立腺肥大症	900 (17.7%)	3 腎盂腎炎	106 (3.5%)
亀頭包皮炎	246 (4.8%)	4 腎下垂	97 (3.2%)
包莖	241 (4.7%)	5 神経因性膀胱	58 (1.9%)

() %は有疾患数に対する割合: 男 5,073例
女 2,989例

- 報), 開設より5カ年余の入院および手術統計.
泌尿紀要 **31**: 1751-1759, 1985
- 5) 丹田 均, 加藤修爾, 大西茂樹, 坂 丈敏, 中嶋久雄: 東札幌三樹会病院における臨床統計(第5報), 1984年度入院患者統計. 泌尿紀要 **31**: 1995-2002, 1985
- 6) 丹田 均, 加藤修爾, 大西茂樹, 中嶋久雄, 坂丈敏: 東札幌三樹会病院における臨床統計(第6報), 1985年度外来新患統計. 泌尿紀要 **33**: 730-734, 1987
- 7) 丹田 均, 加藤修爾, 大西茂樹, 中嶋久雄, 毛利和富: 三樹会病院における臨床統計(第7報), 1986年度外来新患統計. 泌尿紀要 **33**: 1662-1668, 1987
- 8) 丹田 均, 加藤修爾, 大西茂樹, 中嶋久雄, 毛利和富: 三樹会病院における臨床統計(第8報), 1987年度外来新患統計. 泌尿紀要 **34**: 2213-2218, 1988

(1989年3月3日迅速掲載受付)